

適正利用・エコツーリズムワーキンググループからの報告

1. 知床の観光・レクリエーション利用の新制度：知床エコツーリズム戦略実施

○知床エコツーリズム戦略に基づく提案

平成 25 年度から知床エコツーリズム戦略を実施している。平成 25 年度は、地域関係団体から 2 件の提案があった。

①知床ロングトレイル・プロジェクト(提案者:知床ガイド協議会)

知床自然センター～知床峠間のロングトレイル建設を提案。徒歩と自転車の通行を想定し、利用料の徴収を検討。

②先端部エコツアー(提案者:羅臼町観光協会)

観光客と地元住民を対象とし、船舶を利用した半島先端部でのエコツアー実施を提案。漁業活動の紹介・解説と外来種駆除作業、周辺の自然紹介を想定。

○平成 24 年度からの検討課題

平成 24 年に提案のあった 3 件について、②、③については提案に基づく対策等を進めた。また、①については今後の取扱いを検討中。

①知床五湖冬期利用促進事業(提案者:斜里町観光協会)

登録引率者による引率を前提として冬期の知床五湖の利用を提案。そのため、冬期閉鎖された道道知床公園線の除雪を実施し、知床五湖まで車両での送迎を可能とする。

②知床ヒグマエサやり禁止キャンペーン企画(提案者:斜里町観光協会)

観光客によるヒグマへのエサやり禁止の周知を提案。構成団体の協力の下、様々なツールを活用し啓発活動を進める。

③知床沼の野営禁止によって生じた諸問題とその解決に向けた提案(提案者:羅臼山岳会)

知床沼での野営禁止について、一部解除を提案。野営可能とすることにより山岳遭難を防止し、区域の限定により植生保全を図る。

2. 検討会議の再編について

平成 24 年度末に知床エコツーリズム戦略を策定し、今後は戦略に基づく議論の仕組みを適正に運用していくことが基本となる。検討会議における議論を適切に推進するため、今後、検討会議の再編を予定。

3. 平成 26 年度の主な予定

提案の提出状況等に応じ、年間 1～2 回程度、開催予定。

4. 個別地域における検討状況

従来から検討してきた地域の検討状況については以下の通り。こちらも部会となっているが、戦略に基づく部会とは性質が異なる、「実施」のための部会である。

○知床五湖の利用のあり方協議会

→知床五湖利用適正化計画の改定について協議し、ヒグマ活動期における適正な範囲での利用者の増枠、地上遊歩道の限定的な2ルート併用が決定。現在、具体的な運用方法について検討中。

○カムイワッカ部会

→安全対策のための左岸補強工事を行う予定であり、それに伴って平成26年シーズン後に仮橋を撤去し、自然環境や景観上の支障が最も少ない滝500m手前のスペースにシャトルバス用の旋回場を整備することを決定。

平成26年度以降の3年間のマイカー規制期間について、夏季は現行制度と同様の25日間（8月1～25日）、秋季はシルバーウィークを中心に（混雑予測に合わせて5～10日間）規制を行うことを決定。

○ウトロ海域における取組

→地域を主体とした協働型の取り組みを進めていくための実行組織として、知床ウトロ海域環境保全協議会を発足し、活動の軸を部会から移行した。

協議会として、海鳥モニタリングや知床海鳥WEEK銘打った各種イベント（7月22日～31日）を実施するとともに、運営体制の自立化に向けた検討を行っている。